

## 「wPTX+Tmab 療法」について

この治療法は、HER2 タンパクが過剰発現している乳癌に対して用いられる治療法で、手術の前に投与し腫瘍を小さくして摘出しやすくしたり、転移・再発した乳癌に対しても用いられています。「PTX」とはパクリタキセル、「Tmab」とはトラスツズマブの2種類の抗がん剤の略称です。

### 1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
デキサメタゾン＋ ファモチジン＋ クロルフェニラミン	アレルギー予防	5分
生理食塩液	投与時間調整	30分
パクリタキセル	抗がん剤	60分
トラスツズマブ	抗がん剤	90分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

### 2. スケジュール

wPTX+Tmab 療法は7日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日に抗がん剤を投与すると残りの6日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進み、基本的には12サイクル続けていきます。その後トラスツズマブ単剤による治療を継続して行きます。

	1サイクル目		2サイクル目	
	1日目	2日目～7日目	1日目	2日目～7日目
投与日	○		○	
休薬日		○		○



12サイクル

### 3. 特徴

#### ●パクリタキセル

作用: がん細胞が分裂する過程で作用し、抗がん作用を示します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

このお薬にはアルコールが含まれています。

**(アルコールに対してアレルギーのある方はお申し出ください)**

アレルギー予防の目的でステロイド(デキサメタゾン)、

ヒスタミン H2 受容体拮抗薬(ファモチジン)、抗ヒスタミン薬(クロルフェニラミン)を事前に投与します。



#### ●トラスツズマブ

作用: がん細胞の表面にある HER2(ハーツー)受容体への刺激をブロックしてがん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感を感じたらお知らせください。

## 4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で参考にしていただきたいと思います。)

## 脱毛

**好発時期:** 2～3週間過ぎ頃から起こりやすくなりますが、治療終了後2～3ヶ月で回復し始めます。

**対策:** 症状が現れたら、回復まではスカーフ、かつらなどを着用していただけるとよいでしょう。

外出時は直射日光を避けていただくため帽子をかぶるとよいでしょう。

頭皮を清潔に保っていただくことをお勧めします。ただし、刺激の強いシャンプー等は避けてください。



## 注射時反応 (Infusion reaction)

**好発時期:** トラスツズマブの注射が開始になってから24時間以内に現れやすい症状です。

**主な症状は発熱、悪寒(さむけ)などです。まれに頭痛や倦怠感などが起こることがあります。**

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

2回目以降は起こりにくくなるのが特徴です。

**対策:** 解熱剤が処方になっている場合は、症状に合わせて服用してください。

## しびれ (末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を障害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる(数ヶ月～1年)場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

**好発時期:** 抗がん剤点滴終了後数日でも出ることもありますが、多くは5～6週目くらいから起こりやすくなります。

症状は軽いままで推移することもあります。徐々に強くなっていく場合もあります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

**対策:** 早い時期に発見した方が回復も早いため、日ごろから注意してください。

症状があるときには刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなどです。

**しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。**

## 関節痛・筋肉痛

**好発時期:** 抗がん剤投与の2～3日後位に出てくることがあります。ただし、症状は軽く数日で回復する場合があります。症状が辛い場合はお伝えください。

**対策:** 患部のマッサージで血流を改善するとよくなる場合があります。強さによって痛み止めを処方することもできますのでお伝えください。

## 爪への影響

**好発時期:** 治療開始後、数週間から数ヶ月の間に爪が変色したり、剥がれやすくなったりすることがあります。

**対策:** 一時的な場合が多く、注射が終了すれば次第に回復してきます。爪は適度に切りそろえ清潔に保ちましょう。痛みを伴ったり、出血や膿(うみ)が出るような場合はご相談ください。



## 白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

**好発時期:** 抗がん剤を投与後7～14日目くらいに減少のピークを迎え、21～28日目くらいには回復します。

**対策:** 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。**手洗い、うがい**を心がけましょう。

外出時は**マスク**を着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合は速やかに抗生剤の内服を開始し、3日間飲みきるようにしてください(途中で解熱しても服用を中止せず飲みきってください)。それでも解熱しない場合はご連絡ください。

※ただし、抗生剤によるアレルギーと思われる症状(発疹、かゆみ、動悸、発汗、息苦しさなど)が現れた場合は服用を中止しご連絡ください。



## 吐き気・嘔吐

**好発時期:** 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



**対策:** 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。多くの場合、予防目的で抗がん剤治療前に吐き気止めの点滴を行います。

**食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。**

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

## 心機能低下

心機能が低下すると疲れやすくなり、息切れ、息苦しさ(座椅子などに座っているときのほうが横になっているより楽な状態など)、手足のむくみなどの症状が出てきます。重篤になると心不全を起こすことがあるため注意が必要です。

**好発時期:** 治療が進むにつれて起きやすくなっていきます。

**対策:** 定期的に心臓の機能検査を行い評価します。

状態によってはトラスツズマブを休薬して回復を待ったり、場合によっては投与中止となることもあります。もともと循環器系の病気をお持ちの方は、正常な方より症状が出やすくなります。上記のような自覚症状が現れた場合は早めにご相談ください。



## 間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。発症頻度は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

**対策:** 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



## アレルギー

**好発時期:** 点滴中または点滴後の比較的早い時点で現れることがあります。

多くはパクリタキセル点滴開始後2~3分以内であり、ほぼ30分以内に発生します。

また、初めてパクリタキセルを点滴した時に発生することが多いです。

自覚症状は、息苦しい、顔がほてる、胸が痛い、発疹がでる、汗がでるなどです。

**対策:** 異常を感じたらすぐにスタッフにお知らせください。

## 血管外漏出

抗がん剤を点滴しているときに血管の外に薬が漏れてしまう(漏出)ことがまれにあります。症状としては点滴部位の違和感、痛み、腫れなどがあり、場合によっては血管に沿って症状が出てくるときもあります。もし、症状にお気づきになった場合は早めにスタッフにお声掛けください。

**好発時期:**点滴している間が最も多く、まれに帰宅数日後に症状が出てくることがあります。

**対策:**抗がん剤の種類によって対策が異なります。基本的には患部を温めたり、軟膏や注射による治療を行います。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表:TEL 028-626-5500